

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
YIC情報ビジネス専門学校		平成1年8月24日		校長 河津 道正		〒 754-0021 (住所) 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話) 083-976-8354		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人YIC学院		平成18年9月26日		理事長 井本 浩二		〒 754-0021 (住所) 山口県山口市小郡黄金町2番24号 (電話) 083-976-8111		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
商業実務	商業実務専門課程		ペット総合学科		平成23(2011)年度	-	令和 3(2021)年度	
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、商業実務分野及び教養面に関する専門知識・技術を教授するとともに良識なる社会人として必要な資質を養い、国家、地域社会の発展に貢献できる心豊かなスペシャリストの育成を目的とする							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	学科の特徴:県内唯一のペットの専門学校、トリマー・ペットショップスタッフ・動物病院スタッフなどペットにかかわる職業に就く人材の育成を行う 取得可能な資格:愛玩動物飼養管理士2級、全国動物専門学校協会トリマー1級(現在調整中)、サーティファイExcel3級、Word3級							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,800 単位時間	450 単位時間	1,500 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
	年		単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
50 人	42 人		0 人		0 %	0 %		
就職等の状況	■卒業者数(C) : 20 人							
	■就職希望者数(D) : 20 人							
	■就職者数(E) : 20 人							
	■地元就職者数(F) : 20 人							
	■就職率(E/D) 100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)							
	100 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)							
	100 %							
	■進学者数 人							
■その他								
(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) PET PARADISE おのだサンパーク、ペットファミリーユ、DOG SALON LIULU、Dog spa GIFT他								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 無 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL							
当該学科のホームページURL	https://www.yic.ac.jp/ib/course/pet/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数				1,950 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				1,230 単位時間			
	うち必修授業時数				1,800 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				1,080 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				60 単位時間			
	(B:単位数による算定)							
	総単位数				単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位			
	うち必修単位数				単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位			

教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	1 人
	② 学士の学位を有する者等（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
	③ 高等学校教諭等経験者（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	1 人
	④ 修士の学位又は専門職学位（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
	⑤ その他（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
	計	2 人
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	1 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・学科の専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会(教育課程編成委員会)を置く。

・審議事項は次の事項とする:カリキュラムの企画・運営・評価、各授業科目の内容・方法の充実及び改善、教科書・教材の選定、教員研修。

・委員会には学校関係者のほか、専攻分野に関する企業等の役員または有識者を1人以上加えることとし、企業等との連携を密にする。(以上 学校法人YIC学院 教育課程編成委員会規則 より抜粋)

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・「学校法人YIC学院は、設置する専門学校各校の各学科に、専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。」(学校法人 YIC学院 教育課程編成委員会規程第2条より)

・カリキュラムは、教育課程編成委員会の意見等を参考に、学内教育課程編成委員会において編成する。教職員会議での検討を経た後、理事会の承認を受け最終決定。

・授業内容・方法の改善・工夫等については、教育課程編成委員会の意見を参考に、可及的速やかに対応する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
中野 正司	山口県獣医師会防府支部長 なかの動物病院 院長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
伊藤 未祐	DOG SALON LIULU	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
河津 道正	校長		—
小田政江	副校長		—
日當泰浩	事務長		—
森野茂弘	教務課長		—
豊田菜摘	教務課長補佐		—
引地舞	学科長		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回(5月～6月、2月～3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月27日 14:00～15:00

第2回 令和7年3月14日 15:00～16:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・インターンシップの時期を早めてはどうか⇒6～7月より就職活動開始

・選択科目や新設科目の導入⇒動物看護、造形美術などを検討、導入

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・山口県内の、学生の住居近くの施設を選定している。
- ・学生の興味分野や就職希望分野（進路）も踏まえ、実習指導者との連携がとれる施設を選定している。
- ・指導者の監督の下、見学・実習を行い職業理解に努める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・実習、演習においては企業間と「講師派遣契約書」、科目について「覚書」を交わしている。
- ・実習・演習の方法・成績評価の方法について実習指導者・教員・学生間で共有している。
- ・実習期間中は教員が電話あるいは訪問して状況確認を行い、問題があれば対応について協議する。実習指導者が記入する成績評価表と、実習終了後に行う報告会での報告内容を踏まえ、教員が最終成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
インターンシップ	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	進路選択の一環として実際の動物に関わる現場において、動物業界における専門職として求められる専門知識・技術、コミュニケーションスキル、思いやりの精神等を身に付け、自身が望む今後の進路に反映できるようにする事を目的とする。	ペットの床屋さんしゅりんこ DOG SALON LIULU ひごペットフレンドリー 等
就職実務	3.【校外】企業内実習 (4に該当するものを除く。)	就職活動の一環として実際の動物に関わる現場において、動物業界における専門職として求められる専門知識・技術、コミュニケーションスキル、思いやりの精神等を身に付け、自身が望む今後の進路に反映できるようにする事を目的とする。	みやもと動物病院 なかの動物病院 ペットパーク Coo & RIKU 等
ドッグトレーニング	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	現役ドッグトレーナーを講師歳、大型犬を用いて犬の扱い方やリードの仕方を学び、しつけの仕方など訓練方法を学ぶ	ドッグスクールSue
トリミング実習Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	現役のトリミングサロンオーナーによるトリミング指導、犬の扱い方、道具の使い方などから学び、実際に犬を用いて実習を行う	ペットの床屋さんしゅりんこ等
トリミング検定対策	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	現役のトリミングサロンオーナーによるトイプードルを用いたトリミング実習、ケネルラムクリップに特化した授業を行い、検定合格を目指す	ペットの床屋さんしゅりんこ等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(教員の研修等の基本方針)

・YICグループ教職員研修規程に基づき計画的に研修を実施している。

・常に変化する業界動向に合わせて、技術・知識の確認をするために、企業企画・イベントの参加を推奨している。

・資格取得のための研修を推奨している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:

ペットセイバープログラム
ペットの救急隊員/ベーシック・アドバンス講習

連携企業等:

一般社団法人日本国際動物救命救急協会

期間:

令和6年10月20日

対象:

一般

内容

ペットのいのちと健康、尊厳を守るための「ペットの救急法(心肺蘇生法/止血法/異物除去法)」および「ペット健康生活支援講習」の知識・技術を身につけてる講習

研修名:

法獣医学と動物福祉学の紹介
～人・動物・環境の健康を守る～

連携企業等:

公益社団法人山口県獣医師会

期間:

令和6年11月23日

対象:

動物医療関係者

内容

アニマルウェルフェア、野生動物について

研修名:

0

連携企業等:

0

期間:

0

対象:

0

内容

0

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:

情報セキュリティ研修 & Excel・Word研修

連携企業等:

学校法人YIC学院

期間:

令和6年12月25日

対象:

教員

内容

情報セキュリティ研修 & Excel・Word研修概論
日常業務で役立つExcel・Wordについて

研修名:

生きづらさに寄り添う理解と支援～発達障害を中心に～

連携企業等:

学校法人YIC学院

期間:

令和6年12月26日

対象:

教員

内容

発達障害などを中心に学生との向き合い方、考え方、対応の仕方など

研修名:

0

連携企業等:

0

期間:

0

対象:

0

内容

0

(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	ロイヤルカナンペテリナリーシンポジウム 高齢期の猫とオーナーのために愛玩動物看護師が出来る事	連携企業等: ロイヤルカナンジャパン
期間:	令和7年8月12日～9月30日まで	対象: 愛玩動物看護師
内容	中高齢期の猫のフードをどう選ぶか、猫を幸せに長生きさせるための栄養学	
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容	0	
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容	0	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	教職員向け 学生 OC スタッフ育成研修	連携企業等: 学校法人YIC学院
期間:	未定	対象: 教員
内容	OC の重要性を再認識するとともに、学生 OC スタッフの活躍が参加者の満足度を大きく左右することを共有。 他校での成功事例を交えながら、学生スタッフの募集から、彼らのモチベーションを高める方法、高校生や保護者への適切な立ち居振る舞い、そして「気づく力」の醸成まで、実践的な育成ノウハウをお伝えします。	
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容	0	
研修名:	0	連携企業等: 0
期間:	0	対象: 0
内容	0	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

・学校関係者評価委員会において、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめ報告書を作成していただく。
・学校関係者評価委員会からの報告書に基づいて本校の自己点検評価を見直し、次年度の改善計画における重点項目を決定する。
これらについて年報・ホームページ等で公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2)学校運営	7 管理運営
(3)教育活動	2 教育の内容
(4)学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5)学生支援	5 学生支援
(6)教育環境	3 教育の実施体制
(7)学生の受入れ募集	5 学生支援
(8)財務	8 財務
(9)法令等の遵守	7 管理運営
(10)社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・本校で実施した自己点検評価・改善計画を学校関係者評価委員会に提出し、意見・協議結果をもとに学校機能評価報告を
まとめ、年報・ホームページで公開する。改善計画にもとづき学校運営や教育の改善を計画的に行う。
またシラバスがテキストの目次に基づくものが多く、具体性がない。
今後、シラバス・コマシラバスの整備をインストラクショナル・デザインを取り入れて改善していくことに決定した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
福本 百合江	情報工学科 在校生 保護者	令和6(2024)年4月1日～令和8(2026)年3月31日(2年)	保護者代表
高村 奈生人	ビジネス系学科 卒業生 株式会社三知 山口支店	令和7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	卒業生
阪上 誠	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社 新卒採用部 部長	令和7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	企業関係者 (情報工学科)
阿部 誉久	山口商工会議所 広域ビジネスサポートセンター長	令和7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	職能団体 (情報ビジネス科)
臼淵 厚史	株式会社 山口グランドホテル 代表取締役社長	令和7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	企業関係者 (ホテルブライダル科)
兼重 顕治	医療法人 協愛会 阿知須共立病院 事務部経営企画室人材開発グループリーダー	令和7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	企業関係者 (医療事務学科)
中野 園子	山口県獣医師会の会員獣医師 なかの動物病院 副院長	令和7(2025)年4月1日～令和9(2027)年3月31日(2年)	企業関係者 (ペット総合学科)
井ノ上 隆志	学校法人 鴻城義塾 山口県鴻城高等学校 進路指導部	令和6(2024)年4月1日～令和8(2026)年3月31日(2年)	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)

URL: <https://www.yic.ac.jp/ib/disclosure/>
公表時期: 令和7年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校の評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL: <https://www.yic.ac.jp/ib/disclosure/>

公表時期: 令和7年7月31日

授業科目等の概要

商業実務専門課程 ペット総合学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			パソコンスキルⅠ	officeソフト（Word）の基本的な活用方法を学ぶ Word文書処理技能認定試験３級の合格に向けた学習	1前	30	2		○		○			○	
2	○			パソコンスキルⅡ	officeソフト（Excel）の基本的な活用方法を学ぶ Excel表計算処理技能認定試験３級の合格に向けた学習	1後	30	2		○		○			○	
3	○			コミュニケーションスキル	これから援助職を目指す上で重要なことは、職業人として必須であるソーシャルスキルのみならず、専門職としての「専門性」の一つとして、コミュニケーションスキルを身に着ける事である。	1前	30	2		○		○		○		
4	○			ビジネスマナーⅠ	社会人としてのビジネスマナーを身に付ける。立ち方、座り方、お辞儀の仕方、場面に 応じた言葉遣いと感じのよい振る舞い、基本的な来客対応ができるようになる。	1後	30	2		○		○			○	
5	○			飼養管理学Ⅰ	犬と猫について学ぶ。犬と猫の飼養管理について学び、人に説明できるようになる事を目的とする	1前	30	4	○			○		○		
6	○			飼養管理学Ⅱ	ペットや動物業界に関わる内容について学ぶ。ペット業界について広い知識を持ち、生命倫理について学ぶ。現在のペット業界に関する様々な課題や問題点を学ぶ。	1後	60	4	○			○		○		
7	○			ドッグトレーニング	基本的行動様式や特徴を学び、正しいハンドリング及び基本的なしつけを修得する。問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1前	30	2		○		○			○	○
8	○			トリミング学	トリミング座学、犬種ごとのカットを座学にて実施（テキストを用いる） 教員によるウィッグを用いた実演	1通年	30	2	○			○			○	
9	○			動物形態機能学	犬猫の体のつくりについて学ぶ。各臓器の解剖生理、生命維持に対する役割から代表的な疾病を学ぶ。	1前	60	4	○			○			○	
10	○			動物臨床栄養学	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶと共に、ライフステージや給餌量の計算方法について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
11	○			動物感染症学	感染が成り立つ背景、原因を知り、環境衛生を含めた衛生管理の考え方を修得する。病原体の種類と特徴を学び、感染症の知識を身に付ける。	1前	60	4	○			○			○	
12	○			動物関連法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。	1後	30	2	○			○			○	

[illegible]

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	学則より a. 各学科の定める教科科目のうち、必修科目、選択必修科目の成績評価がすべて可以上であり、卒業必要単位数を修得している。 b. 全ての学費、教材費等が納められていること。	1 学年の学期区分	2 期
	必修科目1800時間		
履修方法：履修方法は講義、演習、実習		1 学期の授業期間	16 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。